

検査してほしい! になっていませんか?

優先すべきは“体調”です。検査ではありません。

北海道でのインフルエンザの流行がはじまっています。国立感染症研究所によると、11月11日～11月17日の定点あたりの報告数は1.84ですが、北海道の報告数は4.60と日本全国で最も多く報告されています。そして、インフルエンザの流行がはじまると増えるのが『**熱があるのでインフルエンザだと思います。検査してください**』、『**職場・学校で検査をしてきてくださいと言われました**』という患者さまの受診です。当院では受診にいられた患者さまに対して、**必要に応じてインフルエンザ迅速抗原検出キットにて検査を行っています**。しかし、迅速検査による検査結果は100%ではありません。陰性だからといって、**インフルエンザではないとは言いきれない**のです。インフルエンザかどうかは、自覚症状や周囲の状況、検査結果などから総合的に判断されます。検査結果

が陰性だったとしても、医師がインフルエンザだと診断すればインフルエンザです。また、『昨日は陰性だったんですが、今日は陽性かもしれないので・・・』と、連日に亘って受診を希望される患者さまもいらっしゃいますが、インフルエンザと診断された患者さまに対して再検査は行いません。お子様や、高齢者の方ですと連日受診されたことによる疲労や、新たな感染症へのリスクもありますので、受診は控え、自宅で静養するようにしてください。

当院では、急病、救急患者さまに対応するために年中無休、24時間オープンという体制を取っていますが、夜間・救急外来は少数の急病・救急患者さまの対処に特化しており、多数の患者を診療できる体制ではありません。『熱っぽかったけど日中は仕事が忙しくて』、『時間外の方がすいているから』などの理由で診察時間外に受診する行為はご遠慮ください。

**不必要な受診は、
疲労の原因や新たな感染症の
原因になることも・・・。**



インフルエンザ予防接種のご案内

接種期間：令和元年10月28日～令和2年1月31日

料 金：お住まいの地域や年齢によって異なります。
詳しくは受付か電話にてお問い合わせ下さい。

接種日時：【一般】月・水・金(祝祭日は除く)

15:30～(基本は午後の時間帯ですが、難しい場合はご相談下さい。)

【小児】月・火・水・木(祝祭日は除く)

13:30～

※ 1歳未満のお子様は効果が低い可能性があります。
接種を希望される方はご相談下さい。

※ インフルエンザ予防接種時の他ワクチンとの同時接種はできません。

受付方法：窓口、またはお電話(0146-42-0701)にてお申し込み下さい。



Inkar - インカラ - vol.12



- TOPICS -

院長の独り言

BLS研修を実施

世界糖尿病デーイベント

年末年始の診療について

検査してほしい! になっていませんか?

インフルエンザ予防接種のご案内

医療法人徳洲会 日高德洲会病院

〒056-0005 北海道日高郡新ひだか町静内こうせい町1丁目10番27号

☎ 0146-42-0701

院長の独り言

20XX年問題

西暦2000年になるときに、マスコミを賑わせた「2000年問題」を覚えていますか。これは、年数を下2桁だけで処理していたシステムに問題が起こってコンピュータが誤作動するというものでしたが、特に何事もなく通り過ぎました。

これから起こる20XX年問題は、まず2025年問題です。団塊世代（1947～49年生まれ）の全世代が75歳以上の後期高齢者になります。厳密に言いますと、1949年生まれの方が75歳になるのは2024年なのに、2025年問題となっているのは、厚労省の高齢者人口予測が5年区切りになっているためです。ちなみに2025年における高齢者人口の割合は、75歳以上が18%と予想され、「認知症高齢者の日常生活自立度がII以上の生活困難者」は470万人（65歳以上人口の13%）になり介護・医療費が増大します。高齢者世帯も増加して、65歳以上の単身世帯が2025年には76万世帯、夫婦のみの世帯が63万世帯になります。合わせて全世帯の28%を占めるので、孤独死、孤立死、老々介護などが増えることが予測されます。



介護・医療で最大の危機となるのが、団塊世代の子ども達が高齢期を迎える2040年問題です。このときの高齢者人口約4000万人に対して生産年齢人口（15～64歳）は約6000万人に激減します。人手不足によって、特に介護需要に全く対応できなくなります。今でさえ、介護に必要なヘルパーさんの応募は減り続け、離職者も多くなっています。生涯未婚率は、現在男性23%、女性14%ですが、2040年には男性30%、女性19%にもなり、独居老人は増える一方です。将来、施設に入れず、自宅で満足な医療・介護も受けられない高齢者が増加した先には「大量孤独死社会」がやってきます。このまま何も手を打たなければ、若い人にとっては、今よりもっと過酷な未来が待っています。そうならないように、5G/AIの効率的利用、定年廃止、介護ロボット導入、大量移民の受け入れなど、皆で知恵を出し合わなければなりません。

『一家に一台介護ロボット』
なんて時代が来るかも知れません



BLS(一次救命処置)研修を実施

10月31日(木)に院内職員を対象にBLS（一次救命処置）研修を実施しました。BLSとは、突然、倒れてしまった方などに対して救急隊や医師が到着するまでに行う救命処置のことです。心臓が原因の心肺停止の場合、3分以内に救命処置を行わなければ救命率は50%まで下がるとされており、そういった状況に遭遇した際に【BLSを行える人がいるかどうか】はとても重要になってきます。当日は、看護師だけでなく事務員や管理

栄養士など42名の職員が参加し、救命処置に真剣に取り組んでいました。職員からは『私は事務員なので、今まで自分が直接患者さまに触れる機会はないと思っていましたが、緊急時には自分にもできることがあると知ってとても勉強になりました。』との声が聞かれ、とても有意義な研修となりました。



世界糖尿病デーイベントを行いました

糖尿病患者数は、過去最多の328.9万人に

11月14日はインスリンの発見者であるフレデリック・バンディングの誕生日にあたり、この日は『糖尿病の予防、治療、療養を喚起する日』として世界糖尿病デーに指定されています。それに伴い、当院でもイベントを実施しました。当日は管理栄養士、リハビリスタッフによるミニ医療講座のほか、糖尿病ピンポイント健診の実施、ヨガの体験会などを行い、多くの方に参加いただきました。

糖尿病は自覚症状がまったくでない怖い病気です。自分は関係ない、大丈夫だろうと安易に考えずに、少しでも気になるようならば、糖尿病ピンポイント健診を利用するなど、自分の身体について調べておくようにしましょう。



管理栄養士によるミニ医療講座。当初一回の予定でしたが多くの方がいらっしまったため急遽、二回目を開くほどの盛況ぶりでした。

ヨガ療法士・糸山美保さんによるヨガ体験教室。ヨガによるリラックス効果を多くの方に体験していただきました。



受けてみませんか？



糖尿病ピンポイント健診

血糖値・HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)の数値を測定するだけの簡単な検査です。検査は短時間、採血のみですぐにお帰りいただくことができます。まずは気軽に検査を受けてみませんか？

- 検査料金:550円(税込)
- 電話(0146-42-0701)にてご予約下さい

年末年始の通常診療について

12/30

午前診療

31 1/1 2 3

休診

4

通常診療

30日の診察は午前診にて終了致します